

鈴木史 個展 Miss. Arkadin

若手アーティスト支援プログラム Voyage2022

工藤玲那 個展 アンパブリックマザーアンドチャイルド



『未来への抗議』©2021 FUMI SUZUKI



工藤玲那「無題」

2022.7.16_土 - 9.4_日 塩竈市杉村惇美術館

開館時間 10時～17時 (最終受付 16時 30分) 月曜休館 ※祝日の場合は翌日。／問合せ：塩竈市杉村惇美術館 (宮城県塩竈市本町 8-1 / 022-362-2555)

展示観覧料 (常設展込)：一般 500 円 大学生・高校生 400 円 メンバーシップ・中学生以下無料 ※各種障がい者手帳を提示された方は割引。団体割引有。

主催：塩竈市杉村惇美術館 共催：塩竈市 助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団 (仙台市)

後援：河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 TBC 東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ KHB 東日本放送 エフエム仙台 BAYWAVE78.1FM ケーブルテレビマリネット 仙台リビング新聞社

本プログラム 8 回目を数える今回は、公募により選考された映画監督・美術家・文筆家の鈴木史と、ビジュアルアーティストの工藤玲那をご紹介します。

鈴木は大学在学中から自主映画の制作を始め、現在は映画と映像インスタレーションの制作を行っています。自身の経験に深く根ざしたジェンダーへの意識に基づき、社会的に多くの人々とは異なるとされる自身の存在への理解を求めるその作品は、ジェンダーにまつわる思考を喚起します。本展では「見られること」をコンセプトに、Miss. Arkadin (ミス・アーカディン) という名の女性を仮に自身が演じ、パーソナルな事柄も含まれる、身の回りの人物との会話風景をもとに作品化。自身のルーツを辿り過去を見つめ、自身が何者であるかを問い直します。本展が、ジェンダーに関する認識が決して他人事ではないものとして考えるきっかけとなることを願います。

工藤は絵画や陶芸をはじめ、あらゆる表現媒体を介した作品を制作し、各地に滞在しながら活動しています。各地での出会いや個人的な記憶、経験などをもとに柔軟な好奇心から生まれる作品は、自己と他者、ものごとの隙間に生じる言いようのない混沌を探り、固定化された意識や概念を根底から解きほぐそうとする試みと言えます。本展では塩竈に伝わる「母子石」*を題材に、自身の母との共同制作を行います。工藤の母・リャンさんは中国出身であり、現在は移動販売を行うなど、料理を生業としてきました。日本人にも馴染む味へと変化していったリャンさんの料理には、文化の違いを超えた味のグラデーションがあったといいます。工藤が最もリャンさんのルーツを感じる「料理」を題材とした共同制作を通じて、家族、ルーツとは何か、普遍的なテーマについて問い直します。

自身のアイデンティティと対峙し、横断的な手法で自己を具現化する両作家それぞれの表現と出会い、本質的な多様性について考える一助になれば幸いです。

*「母子石 (ははこいし)」の物語について
多賀城の政庁創建時、人柱を立てて永久の護りにするため、とある家族の父が人柱に選ばれました。母と娘は傍にあった石の上でいつまでも悲しみに暮れ、二人の立っていたその石には足跡が残されました。この物語は「母子石」の物語として今に伝わり、塩竈と多賀城を結ぶ道でこの石を見ることが出来ます。

関連企画

ギャラリートーク 鈴木史・工藤玲那

2022/7/16[土] 10時30分 企画展示室

※要展示観覧料。要予約 (定員 15 名)

作品解説等、作家によるギャラリートーク。

鈴木史監督作品上映会 + トーク 小田原のどか × 鈴木史

2022/7/17[日] 14時開演※30分前受付

会場：遊ホール (塩竈市本町1番1号壱番館5階)

チケット：一般1,000円、大学生・高校生800円

メンバーシップ会員500円、中学生以下無料

※展示観覧チケット付き。要予約

鈴木史監督による映画作品『未来への抗議』(2021年/10分)等
を上映。併催するトークイベントでは小田原のどか氏をゲストに
迎え、今回の展示にまつわる内容や、鈴木が幼少期に塩竈で映画
にふれた体験等について話します。

リャンさんは行ったり来たり。

2022/8/20[土] 10時~17時 (最終受付16時30分)

このほか、会期中数回予定。予定は変更になる場合があります。

塩竈市杉村惇美術館敷地内駐車場

参加費：1,000円 (焼き鳥代、展示観覧込)

工藤の母・リャンさんの移動販売車が来館し、焼き鳥を焼いて
販売するパフォーマンスを行います。



「Die Erde gefällt uns nicht. Wir möchten wieder nach Hause. : 我々は地球が嫌いだ。家に帰りたい。」2020年 展示風景

鈴木史 / Fumi Suzuki

映画監督・美術家・文筆家。1988年宮城県塩竈市出身。映画美術学校フィクションコース修了後、映画美術スタッフとしての活動を経て、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻監督領域修了。現在は、映画の制作だけでなく、インスタレーション作品も発表しており、映画と美術のフィールドを横断しながら活動。映画評の執筆も行っている。2020年、ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校審査員特別賞 (岩淵貞哉賞)、2018年モンゴル放送メディア芸術大学映像祭「アンフニー・ブテール」グランプリ受賞。
<https://fumisuzuki.studio.site/>

【個展】2020年「Die Erde gefällt uns nicht. Wir möchten wieder nach Hause. / 我々は地球が嫌いだ。家に帰りたい。」(IN SITU / 愛知) 【グループ展】2019年「摩訶不思議」ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校グループ展B (五反田アトリエ/東京)、2020年「プレイルーム」ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校最終成果展 (ゲンロンカフェ/東京)



「touchable murmur」GALVANIZE Gallery, 宮城 (2018)

工藤玲那 / Rena Kudoh

ビジュアルアーティスト。1994年宮城県出身。2017年東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース卒業。様々な土地を転々としているうちに混ざりあうアノニマスな記憶、捨てきれない幼い頃の自分、唐突な夢…、個人的な混沌をベースに、絵画や陶芸、ドローイングなどの表現で、見たことがあるようで見たことがない世界をつくり出している。現在は拠点を持たず、アジアを中心に各地に滞在、横断しながら制作している。
<https://www.renakudoh.xyz/>

【主な個展】2017年「anima」(POST Gallery 4GATS / 東京)、2018年「touchable murmur」(GALVANIZE Gallery / 宮城) 2021年「Metamorphosis Bon Voyage」(LKIF gallery / 韓国)、2022年「一人で寂しく二人包含 三人集まるとはい切り身」(VOU / 棒 / 京都) 【主なグループ展】2019年「Reborn-Art Festival 2019」(宮城)、2019年「모험! 더블 크로스 Adventure! Double Cross」(PACK: / 韓国)、2020-2021年「CONTACT」(Clayarch Gimhae Museum / 韓国)

若手アーティスト支援プログラム「Voyage」は、これからの活躍が期待される若手アーティストの可能性に光をあて、新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心としてトークやワークショップなど多様な表現の機会を設ける事業です。これまで、多くの人々にとって新たな才能や感性と出会える場となるよう毎年度ごとに異なる作家と共に取り組んできました。展示制作にかかる費用の一部のほか、企画や広報などに関する支援を通して、地域にゆかりのある若手アーティストの意欲的な表現活動をサポートし、発表の場を提供します。今年度の特別審査員は、石倉敏明氏 (人類学者・秋田公立美術大学大学院准教授)、小田原のどか氏 (彫刻家・評論家・出版社代表)、三瀬夏之介氏 (日本画家・東北芸術工科大学教授) です。

問合せ・申込み / 塩竈市杉村惇美術館

宮城県塩竈市本町8-1 / ☎022-362-2555

<http://sugimurajun.shiomo.jp/>



本企画は手指の消毒や換気、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をして行います。また、ご来館の方にはマスクの着用をお願いしています。今後の状況次第ではオンラインでの実施など、内容が変更になる場合があります。変更がある場合は当館ホームページ、SNS等でお知らせいたします。